

交通死亡事故等の特徴と警察の取組

令和元年10月28日
警察庁交通局交通企画課

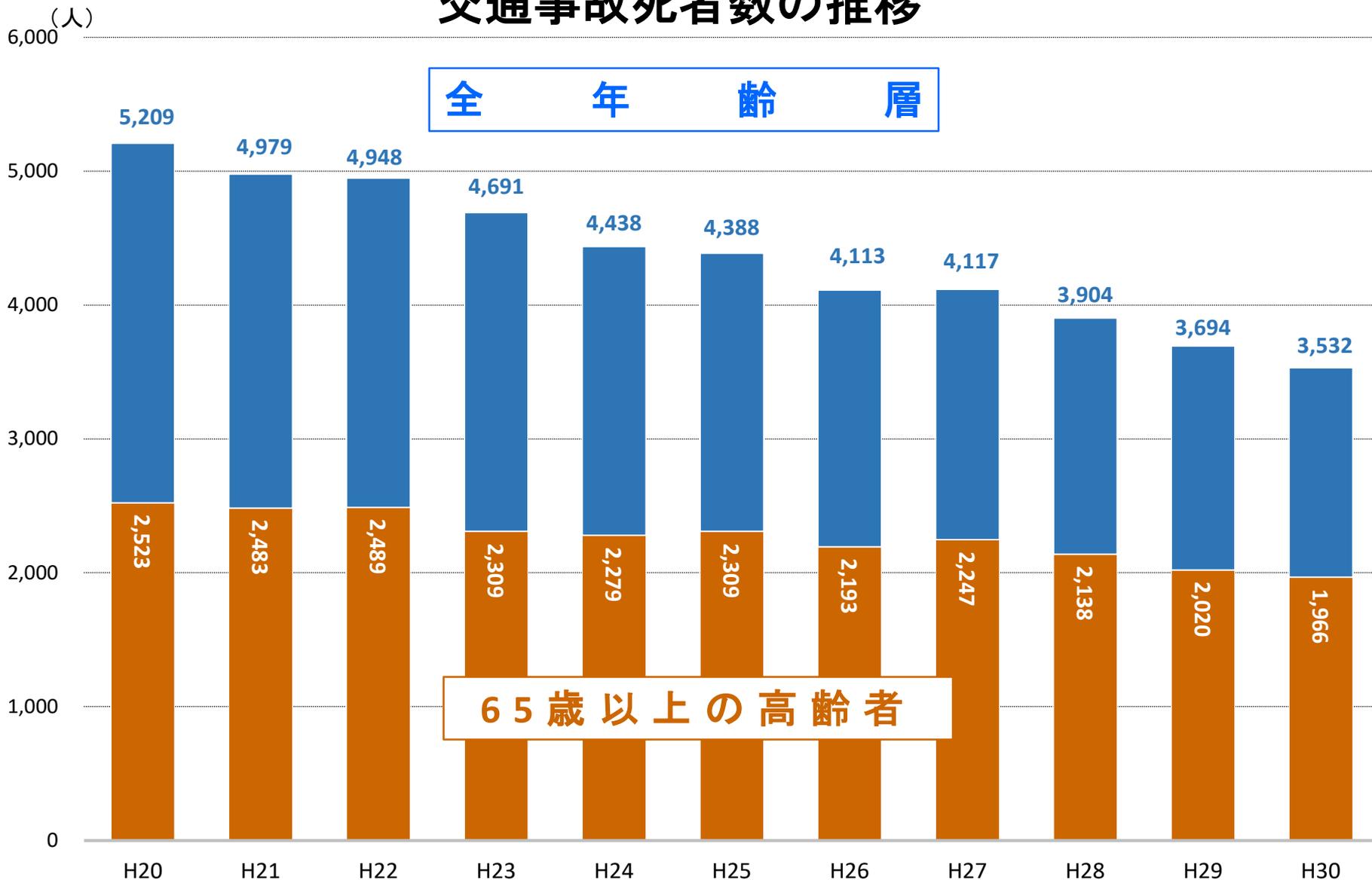
(注) 数値は、単位未満で四捨五入してあるため、合計等が内訳の数値と一致しない場合がある。

交通死亡事故等の特徴

- 1 交通事故死者数の推移等
- 2 年齢層別の死亡事故件数
- 3 状態別死者数の推移等
- 4 歩行中・自転車乗車中死者の法令違反状況
- 5 携帯電話使用等に係る交通事故

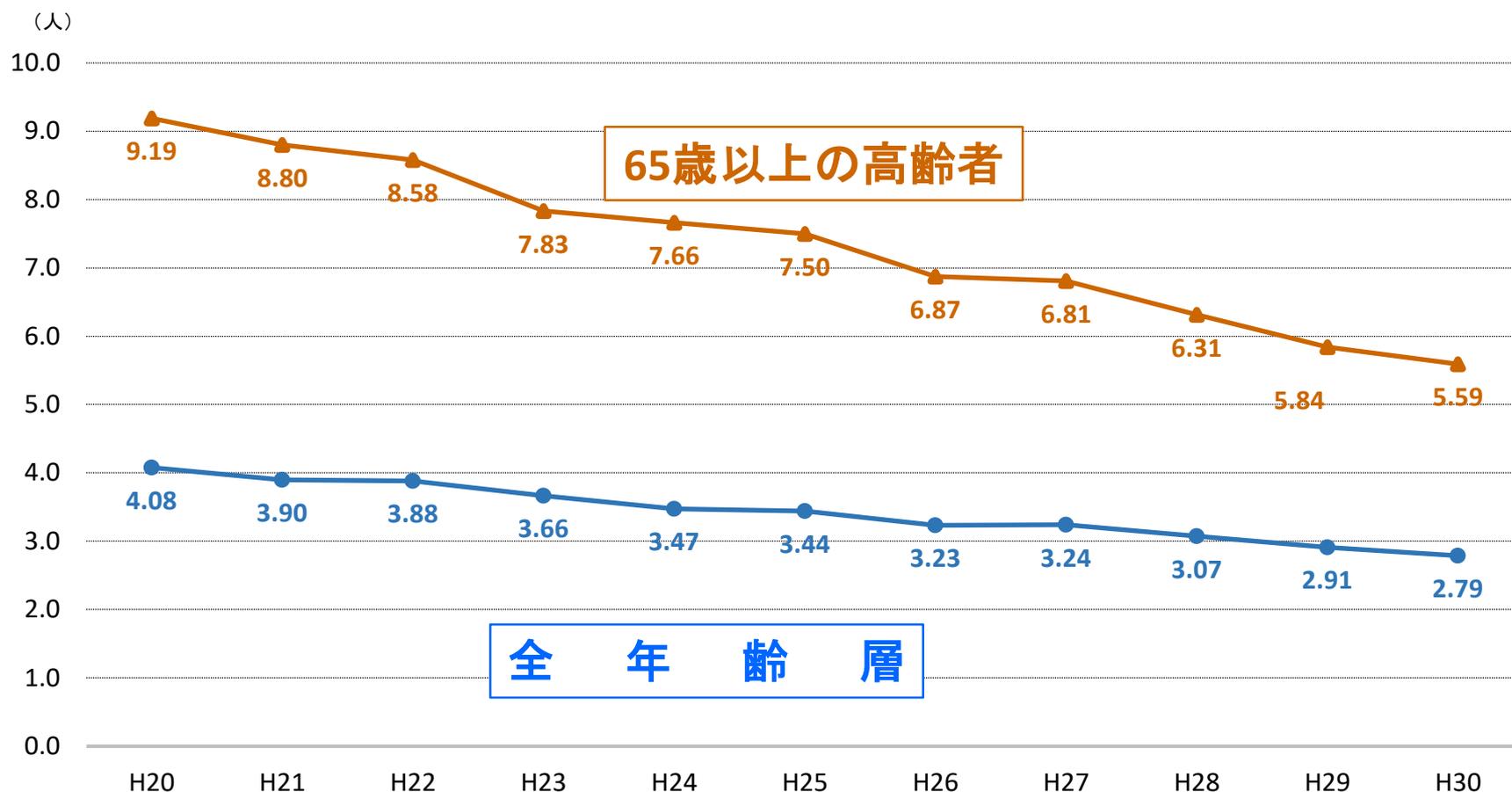
1-1 交通事故死者数の推移等

交通事故死者数の推移



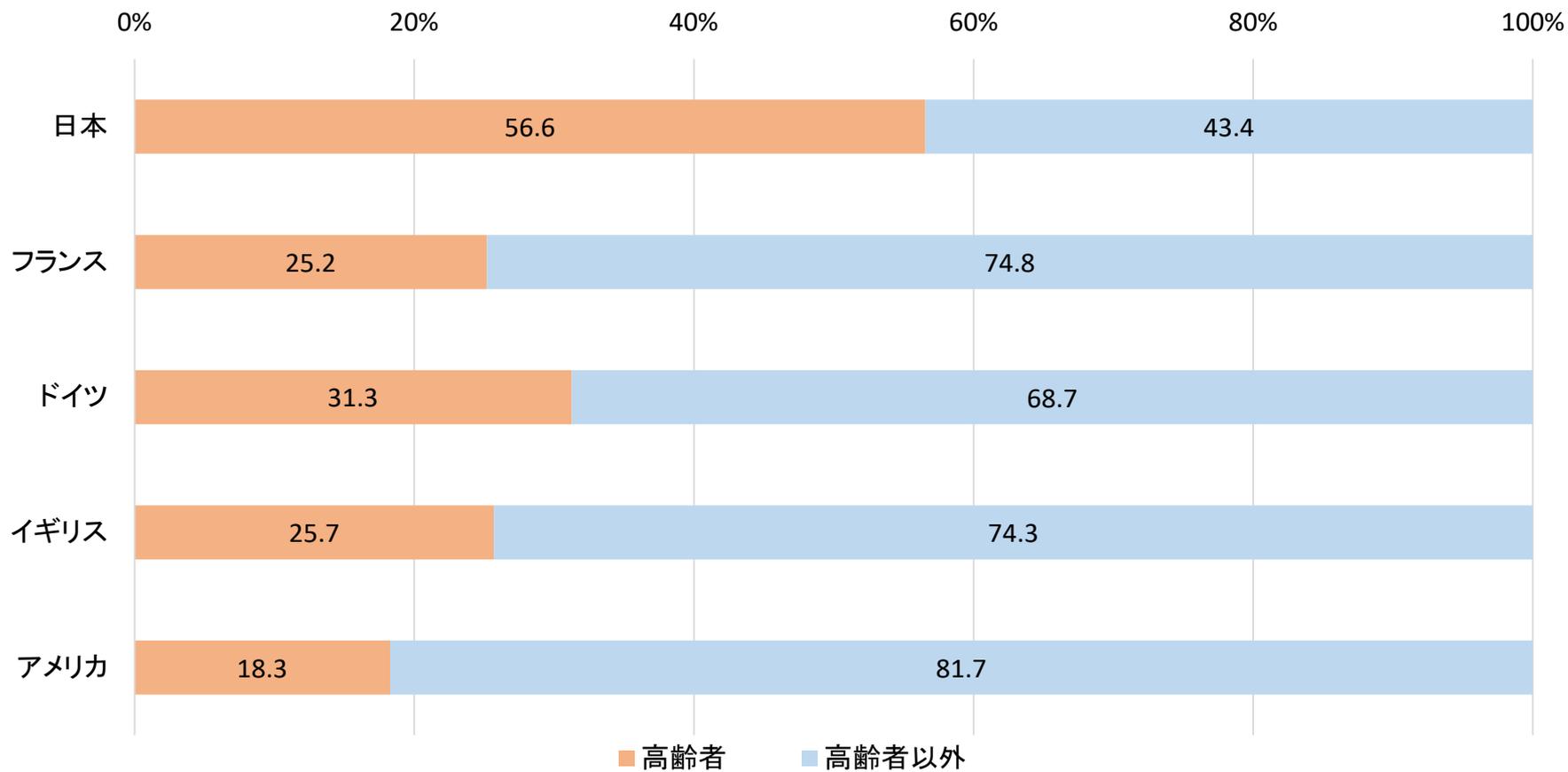
1-2 交通事故死者数の推移等

交通事故死者数の推移（人口10万人当たり）



(注) ・ 算出に用いた人口は、各年の前年の人口であり、総務省統計資料「国勢調査」又は「人口推計」(各年10月1日現在の人口(補間補正を行っていないもの))による。以下同じ。

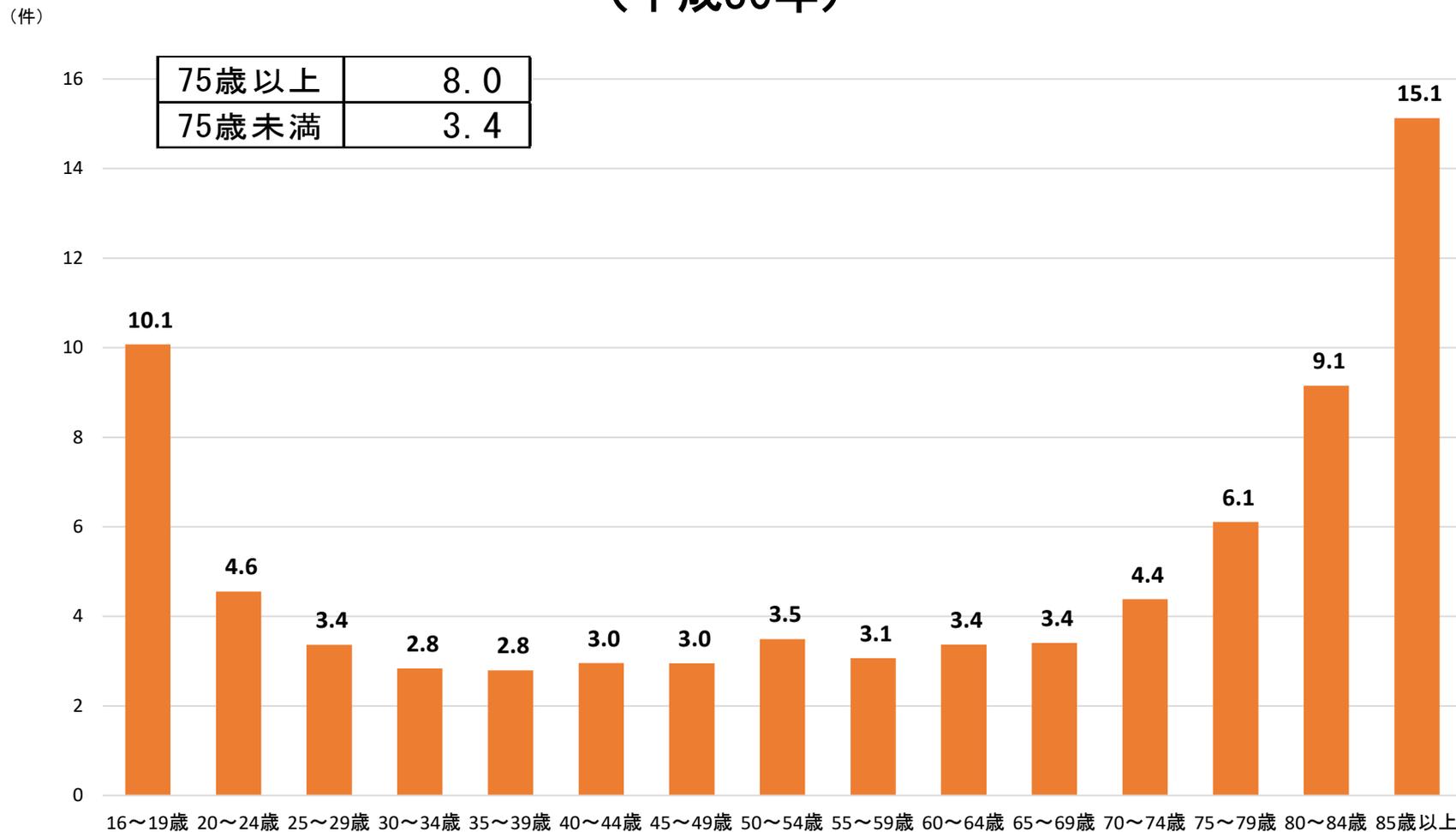
国別年齢層別30日以内死者数の構成率比較（2017年）



(注) 国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料による。

2 年齢層別の死亡事故件数

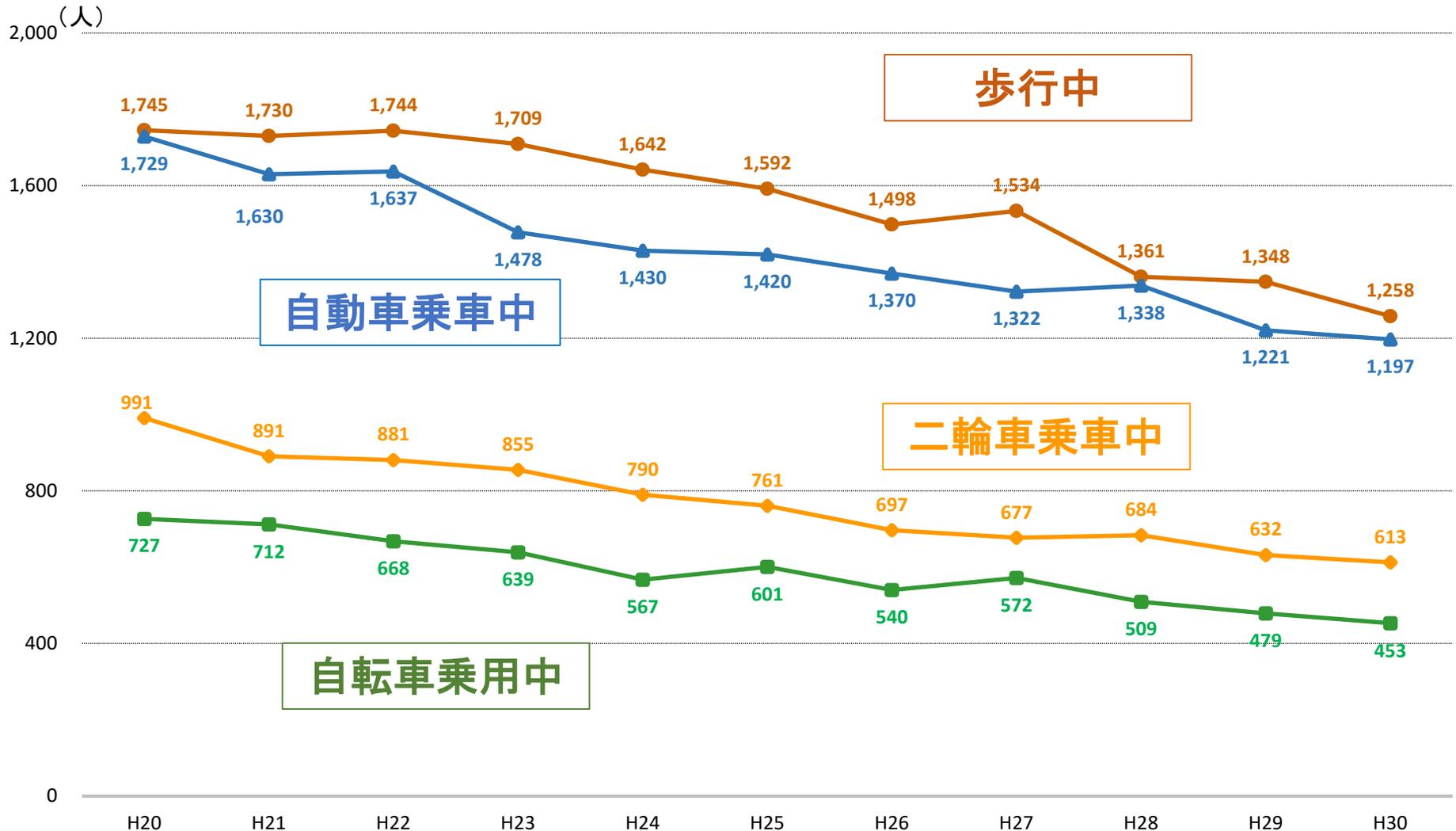
原付以上第1当事者の年齢層別の免許人口10万人当たり死亡事故件数 (平成30年)



(注)・算出に用いた免許人口は、平成30年12月末現在の値である。
・無免許の件数を除く。

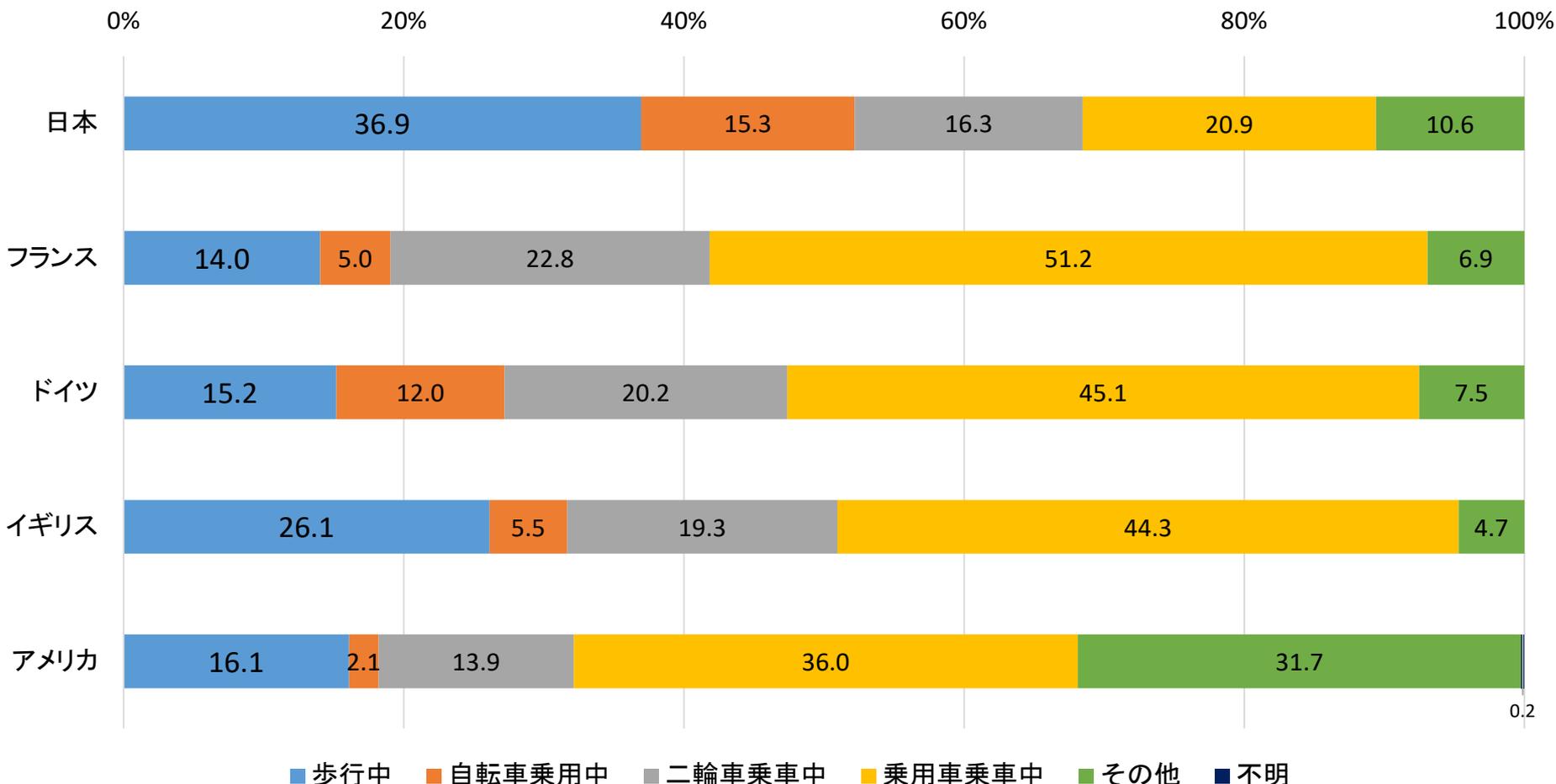
3-1 状態別死者数の推移等

状態別死者数の推移



3-2 状態別死者数の推移等

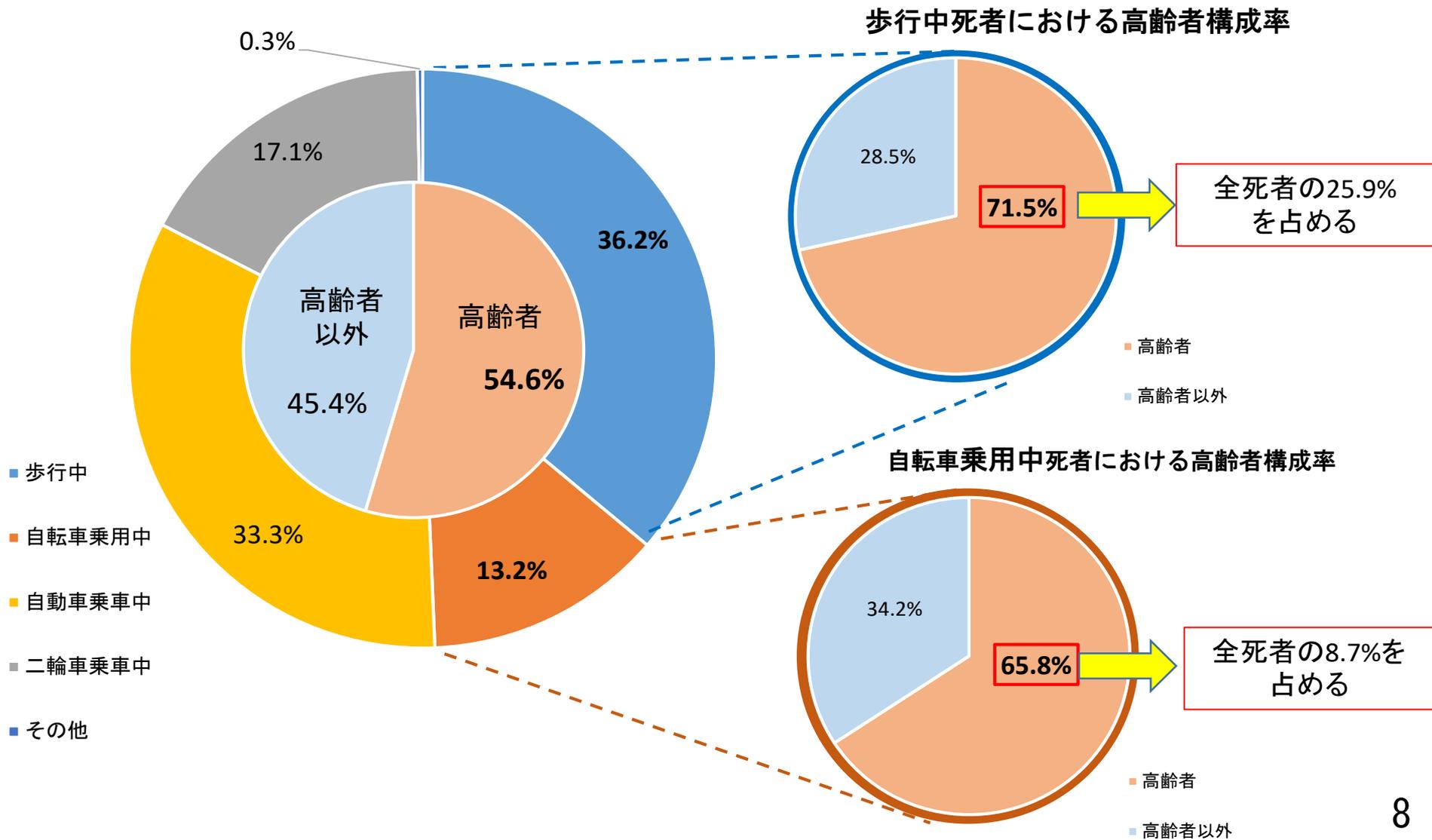
国別状態別30日以内死者数の構成率比較（2017年）



(注) 国際道路交通事故データベース(IRTAD)資料による。

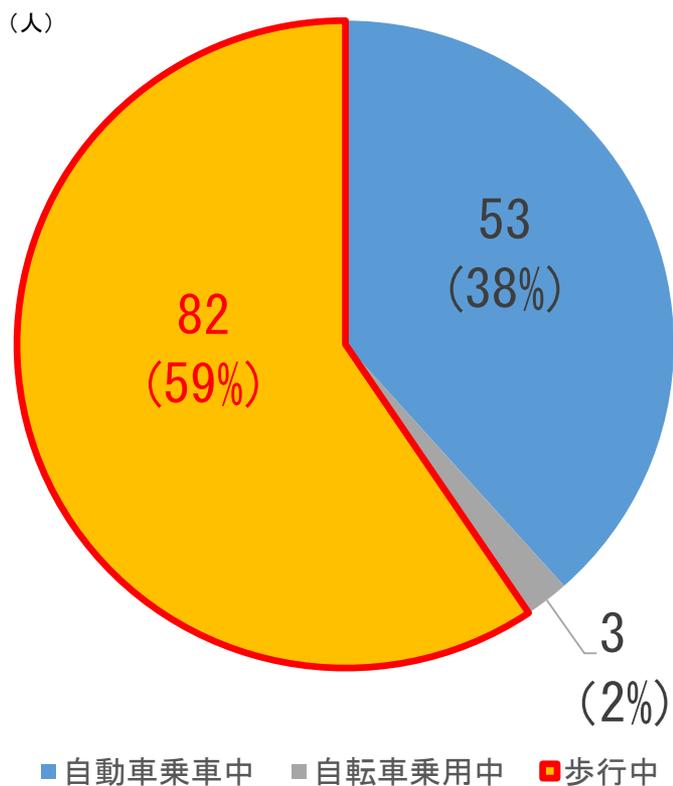
3-3 状態別死者数の推移等

状態別年齢層別交通事故死者構成率 (平成26年～平成30年合計)

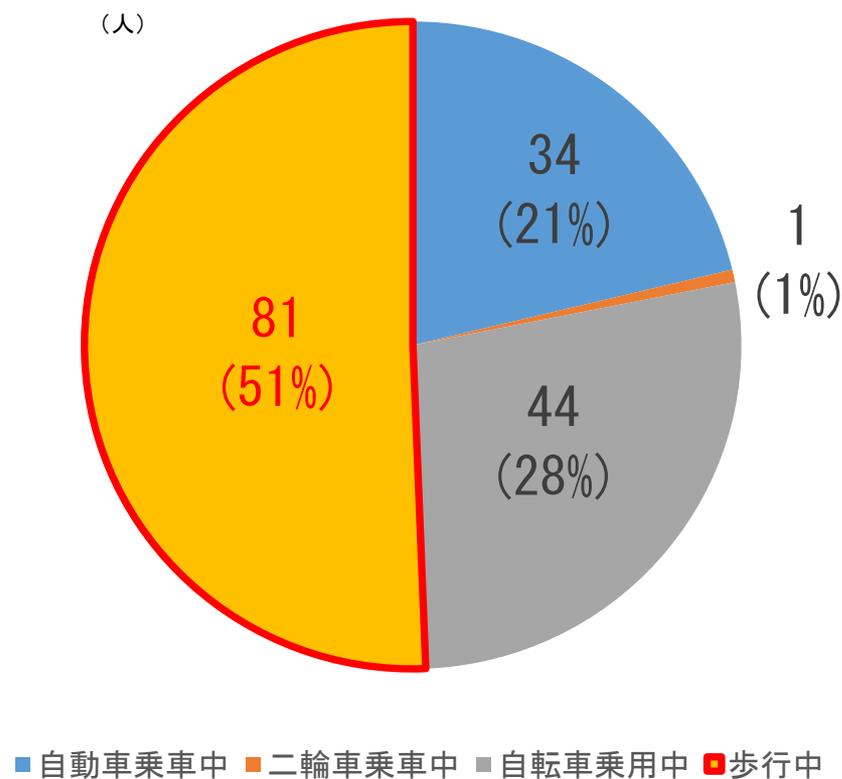


3-4 状態別死者数の推移等

幼児の状態別交通事故死者数の構成
(平成26年～平成30年合計)

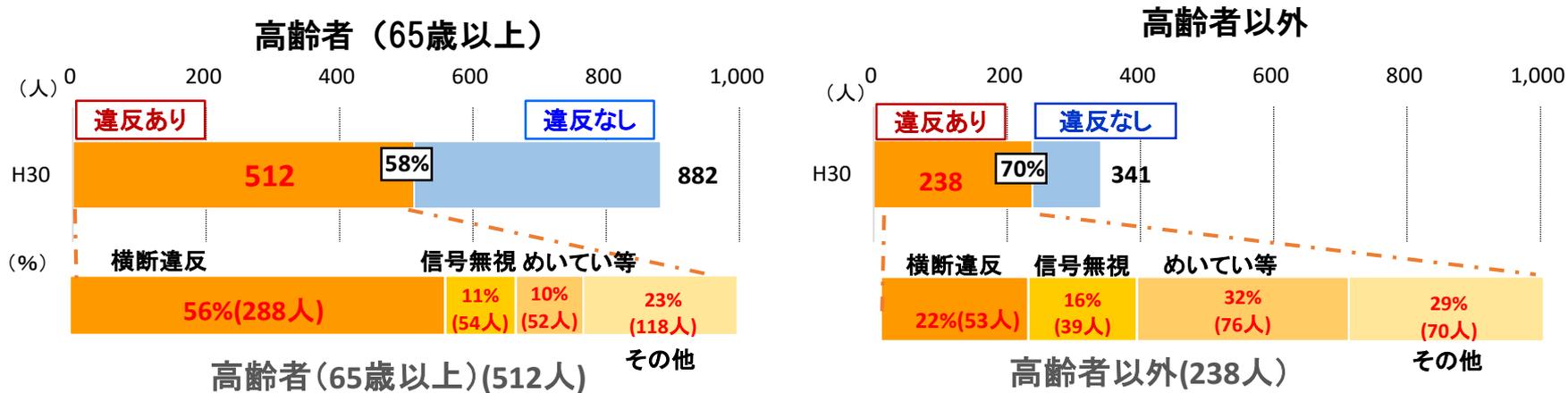


小学生の状態別交通事故死者数の構成
(平成26年～平成30年合計)



4 歩行中・自転車乗用中死者の法令違反状況

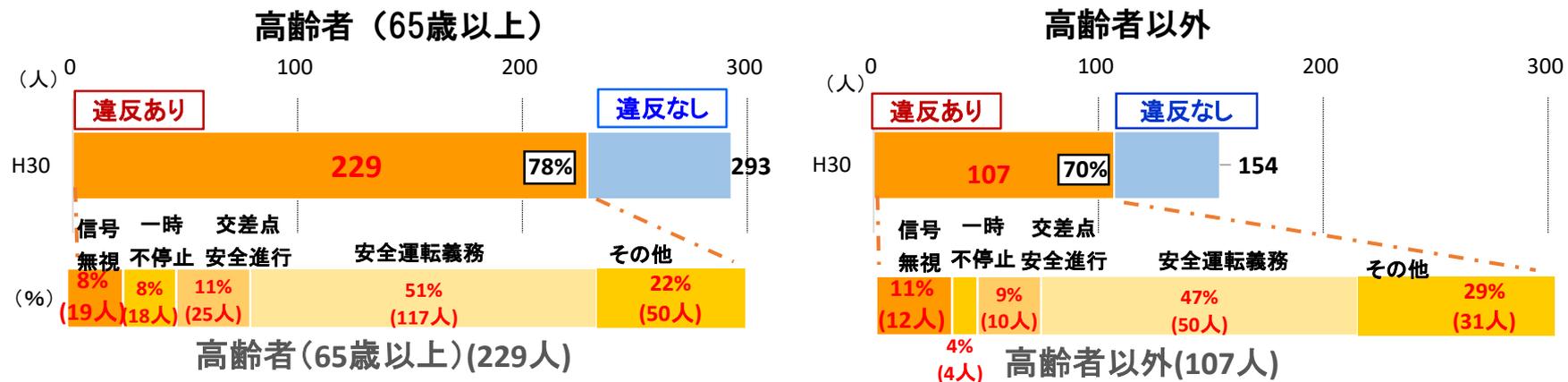
歩行中死者（第1・第2当事者）の法令違反状況（平成30年）



(注) ・「違反あり」には、法令に規定のない「飛出し(安全を確認しないで道路に飛び出したもの)」、「調査不能(違反種別が不明の場合)」等を含む。

(注) ・「横断違反」とは、横断歩道外横断、走行車両の直前直後横断等をいう。

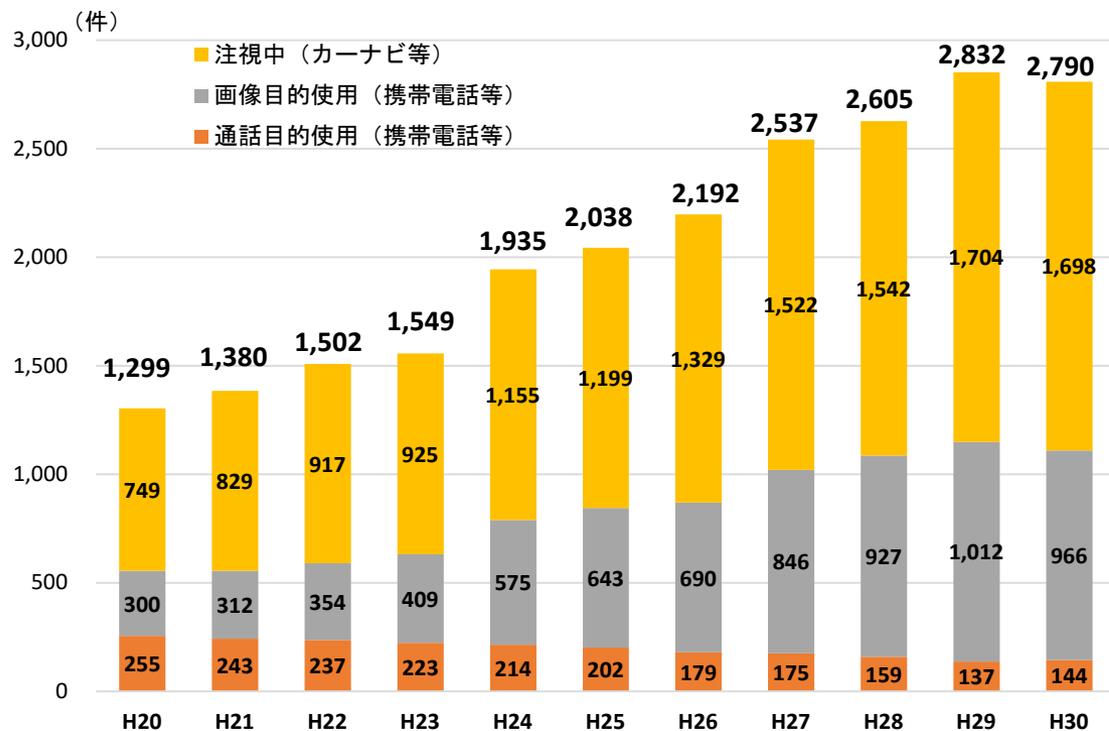
自転車乗用中死者（第1・第2当事者）の法令違反状況（平成30年）



(注) ・「違反あり」には、「調査不能(違反種別が不明の場合)」等を含む。

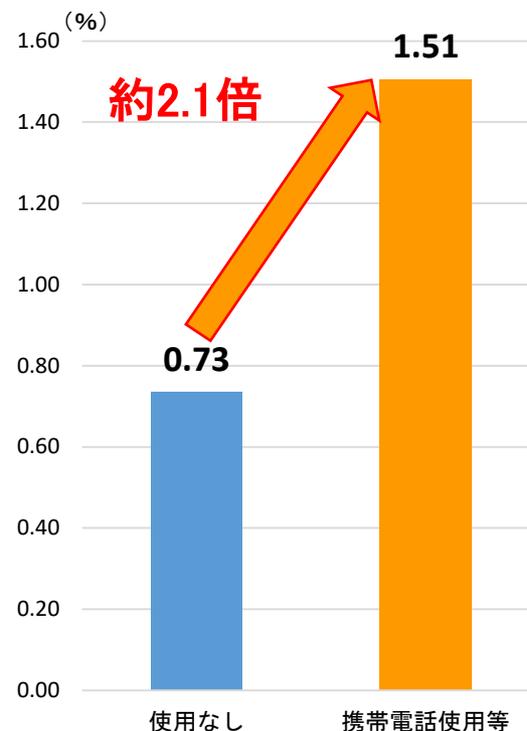
5 携帯電話使用等に係る交通事故

携帯電話使用等に係る使用状況別 交通事故件数の推移



(注) ・ 重複件数を除いているため、各項目の合計と図の総件数とは異なる。

死亡事故率比較 (平成30年)



(注) ・ 調査不能は除外した。

警察の取組

- 1 高齢者対策
- 2 幼児・児童対策
- 3 道路交通法の改正

1 高齢者対策

高齢者歩行者・自転車利用者に対する広報啓発、交通安全教育

交通ルール・マナーについての講話や助言・指導



シミュレーター(歩行者・自転車)による交通安全教育



夜間における視認効果等体験



高齢者運転者対策

「安全運転サポート車」の普及推進



運転に不安を覚える高齢者等の支援

- 運転適性相談の充実
- 交通安全教育等の推進
- 自主返納制度及び自主返納者に対する各種支援施策の周知等



2 幼児・児童対策

未就学児を中心とした子供の安全確保に関する施策

関係機関と連携した危険個所の抽出



子どもの通行が多い生活道路等における交通安全指導・取締り



幼児・児童に対する交通安全教育

交通安全教室



「横断の仕方」の教育



自転車安全教室



自転車シミュレーター の活用



3 道路交通法の改正

【携帯電話使用等に関する罰則の強化】

	携帯電話使用等 (保持) (①通話(保持) ②画像注視(保持))				携帯電話使用等 (交通の危険) (①通話(保持) ②画像注視(保持) ③画像注視(非保持) することによって交通の危険を生じさせる行為)			
	【罰則】	【反則金の限度額】	【反則金の額】 (政令事項)	点数 (政令事項)	【罰則】	【反則金の限度額】	【反則金の額】 (政令事項)	点数 (政令事項)
現行	5万円以下の罰金	8千円 (普通車)	6千円 (普通車)	1点	3月以下の懲役又は5万円以下の罰金	1万5千円 (普通車)	9千円 (普通車)	2点
改正後	6月以下の懲役又は10万円以下の罰金	4万円 (普通車)	1万8千円 (普通車)	3点	1年以下の懲役又は30万円以下の罰金	適用なし (非反則行為に)	適用なし (非反則行為に)	6点



運転中の携帯電話使用等の禁止

令和元年12月1日施行

【自動運転への対応】

レベル3の実用化 (来春施行)

レベル1	システムが前後・左右のいずれかの運転操作を支援
レベル2	システムが前後・左右の両方の運転操作を支援
レベル3	特定条件下でシステムが運転制御を実施/故障時等は運転者が対応
レベル4	特定条件下でシステムが運転制御を実施/故障時等もシステムが対応
レベル5	常にシステムが運転制御を実施



高速道路における自動運転(イメージ)